

年次報告（2004年12月13日）
フランクフルト日本語プロテスタント教会

年の初めに私達の教会は2件の洗礼式を行いました。2人の受洗者は、その前に全礼拝（11回）と全聖書会（11回）にお出でになり、受洗準備会に参加され、教会の誠実なメンバーとなりました。

3月にはいわゆる信徒総会、正確には教会総会を開催しました。私達は教会が今年度の新しい歩みをしていく最初の重要な段階を経過したことになります。一つの結論に導かれるまでに長い白熱した議論がもたれました。10人の教会員を教会員名簿に登録しました。これにより2004年はフランクフルト日本語プロテスタント教会は10人の教会員と1人の牧師によって構成されることになりました。実質的にはこの教会は1989年からすでに存在し、これまでも沢山の牧師が（様々な期間）フランクフルトの教会に仕えていたのですが・・・。

礼拝の場であるフランクフルト・ハウゼン教会とは、教会礼拝堂を月に一度、集会室を月に二度使用出来るよう借用契約を結んでいます（この12月から保険にも加入）。礼拝は月に1度、第一日曜日（1月は第2日曜、また、12月は第4アドヴェント主日にクリスマス礼拝を行うため2回、なお、8月の礼拝はありません）にもたれます。ハウゼン教会の祝祭日や教会祭には私達も出来るだけ参加していますが、その他にもヘッセン・ナッサウ領邦教会(Landeskirche)と結びついています。そして、さらにRhein-Main地方における教会の国際協力委員会に参加する準備を始めています（2005年から参加予定）。

教会総会においては、教会役員（または評議員）を毎年選出します。役員は、役員代表、副代表、書記、会計の4名からなり、毎月礼拝後に役員会をもって協議し、議決をし、議事録を残します。牧師は助言者をして、議決権を持たずにここに参加します。

教会はヘッセン・ナッサウ Landeskirche からの750ユーロ以外に外部からの助成を受けておらず、教会創立以来、献金（礼拝献金と月定献金）によって運営しています。教会は経済的に自立しなければなりません、そこへの道はたやすいとは言えません。会員の増減の著しい時には収入の見通しが不明確で、予算を立てにくいことがありました。また、礼拝の出席者が少ない（2～3人）時は、献金もそれに対応して少なく、多い時（12人～15人）時には、それに応じて多いという状態です。月定献金は、教会収入に一定の見通しをもつために重要なものです。月定献金は、キリスト者として教会を支えるための大切な義務であり、基本ですから、今年の総会ではそれを訴え、しっかりと話し合い、

各自自覚を持って月定献金をしてもらうことになりました。額は各自が決定し、会計のみが知っています。

これによって、2004年度も整った予算を提案し、議決することが出来ました。年間決算は来年の教会総会に提出され、承認されることでしょう。

これらの明確な経済的基盤をふまえて、教会予算の用途について話し合い、役員会は以下のようなことを明らかにしました。

1. 牧師に対しての感謝のしるしとして献げる額（これは献金ではありません）
2. オルガニストに対して。
3. 教会と付属施設の賃貸料のために。
4. その使用に関する保険のために。
5. 外部説教者のための予算。
6. 小さな月報のための予算。
7. 教会員の交わりのために。
8. 教会の事務のために。

積み立てが出来ないのは明らかです。手にした分だけ口に入れている状態（ドイツ語の言い回し）です。しかし、その収支はちょうど良いというところでしょう。

月定献金に対する自己責任と選挙を通しての役員選出、この二つがキリストの教会の核心をなす「拘束」であることにお気づきのことと思います。教会員の一人一人が責任をもって教会の意志決定プロセス（選挙と予算案議決）に関わるようになり、自覚をもって参加することにより、初めて一つの共同体のようなものが出来上がります。お互いに他者を支え、そして、責任を引き受けるような共同体です。全ての教会員がこのことを心にとめて、以上のように教会を維持できていることは、私達のフランクフルトにある教会に対する大いなる恵みと言って良いでしょう。